

南北国際輸送回廊開発に向けた最近の動き(アスタラターミナルの改築)

アゼルバイジャン南部、イランとの国境に位置するアスタラ鉄道ターミナルの改築工事が完了したとカスピアンニュース等が5月17日に報じているところ、記事の要旨をご紹介します。

1. アゼルバイジャン鉄道公社(ADY)は、南北国際輸送回廊経由のトランジット貨物の増加に対応するため、アスタラ県にある貨物ヤードの改築を完了。現代標準の倉庫と安全かつ持続可能な運行に必要な技術及び税関が設置され、今年末までにフル稼働する予定。同ターミナルの稼働により、今年末までに南北国際輸送回廊の通過貨物輸送は 10～15%増加見込む。
2. Astara Terminal LLC が運営するイラン側のアスタラターミナルでは、2018 年から2023 年にかけて 250 万トン以上の貨物を積替えており、その積替え貨物量は年々増加。2024 年1月～4月期における貨物の積替え量は 284 万トン、対前年同期比 14%の伸び。また、2024 年1月～4月期の ADY の通過貨物輸送量は対前年同期比 14%増加の約 250 万トン、うち南北国際輸送回廊の貨物輸送量は 26 万トンで、前年同期比 29%増加。

アゼルバイジャンのみならず、同回廊沿線国の動きも活発化しています。5 月にロシア・カザンで開催されたフォーラムでは、3 カ国間(アゼルバイジャン・イラン・ロシア)の税関・運輸会議が6 月にイランのアスタラで開催されることが発表されました。同フォーラムでは、ロシアの運輸副大臣が南北国際輸送回廊のミッシングリンクであるラシュト・アスタラ鉄道敷設に向けた探查作業が6月に開始されることも発表されました。同じく5月にはインド港湾グローバル(IPGL)とイラン港湾海事局(PMO)の間でチャーバハール港の運営に関する10年間の契約に調印がなされました。

中央回廊という東西ルートの変遷に注目が集まりがちですが、アゼルバイジャンはイランとロシアという大国の貿易ルート上にあるため、これらの地域のハブとなるべく活動を活発化させています。地理的な優位性を活かして、物流の十字路を目指すべくアゼルバイジャンは東西南北に手を伸ばしています。

(以上)

アスタラターミナルの操業風景



(出典: <https://qafqazinfo.az/news/detail/astara-terminali-istifadeye-verildi-fotolar-436098>)